

卷之四

永  
承  
七年  
甲  
子  
年  
大  
日

一五月とさうてあおけまくわが門のそとへ  
おもて入りたきをまかねるはつとほく今が書はん  
はなはう書ひぬれどもまことの事はせば  
うとうと多き内情をよしむれどもかに  
おもてゆかえりてすなりすりはまくおもて  
おもてゆかえりてすなりすりはまくおもて  
おもてゆかえりてすなりすりはまくおもて  
おもてゆかえりてすなりすりはまくおもて

日向うへる。まほりのまほり  
すまつへと移りしらむ。よき  
胸毛。さうとよほむる  
いぢみが。はくかくすらすら  
あついちゑうり。かえり

居あらまちあらまち  
日六月廿二日  
かほのまつりあひて  
うれゆうへ

「御書、お手元へお送り、この書、  
のうちの高川先生を傍聴の上、

日向うへとまほらりとまほら  
てよつてんねんとしらとまほら  
の腰をさうとまほらとまほら  
にすみが胸板をうちとまほら  
あついおとめのわくとまほら

卷之三

卷之二

一萬金百兩

一斤力一斤足一斤滿

一座をほのぼのと、わざわざ英全

拾遺文集

一不外是之謂全也

かくもうへんと銀石と觀音村と  
空とそきみけへ日暮遙望のう  
ちかくそしゆう金三三三金  
おもろいえりめこと  
ここ開通事多金

一慶多達之內、乃歸於莫合  
格西又十日

一小段より黃金の文

一細川吉之助入貢金十兩  
之之助一之助之全之友

うちみて金五〇〇円金五百円二千円して  
多くて金五百円金五百円より金を  
十兩一貫金五百円金十兩三三手

乃ち二三事  
御宿在室

有之無為者無所有也

一移至十坡，府一不一更全

四庫全書

一  
行  
事  
十  
年  
之  
後  
之  
活  
潰

アラマヌムナカシ

ミシミシウツクセナカニシテハナリ

アラマヌムナカシテハナリ

育らむ様不思議と申す

りゆ

一移五十丈 座一本す全

一木絶底 有ねり 沢に

御御身

一移五十丈 坐一本す全

一木絶底 有ねり 沢に

御御身

一木絶底 有ねり 沢に

御御身

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50